

ふれあいボランティア活動
感想文集



平成 25 年度



特定非営利活動法人

さわやか青少年センター

ふれあいボランティアパスポート事業

平成二十五年年度ふれあいボランティア活動感想文集 発行にあたって

さわやか青少年センターは、青少年一人ひとりの「生きる力」の根幹となる『人間力（自ら意欲的に生きていこうとする「自助の力」とみんなで助け合って生きていこうとする「共助の力」）』を、青少年が自ら育むよう支援する団体です。

地域社会の中で行うふれあいボランティア活動（ボランティア活動の中でも人とふれあって行うことを特に重視したボランティア活動のこと。以下、活動という）は、青少年が『人間力』を育むに最適な取組みの一つであると考えています。その活動を行うためのツールとして「ふれあいボランティアパスポート（以下、ふれあいパスポートという）」は平成十二年に公益財団法人さわやか福祉財団で開発され、児童、生徒が行う活動の「きっかけ」や「継続」に有効なツールとして、全国の小中高等学校、団体等で活用されています。（平成二十六年三月現在、一〇三校、三万人の児童・生徒が参加しています。巻末）

ふれあいパスポートの特徴は、児童、生徒が活動をして、活動の記録、感想を書き終えた後に、寄付先欄に掲載の六つの社会貢献団体（以下、団体という）の中から応援したい団体を選ぶと、ふれあいパスポート支援企業・支援団体からいただいた一定額の寄付金を児童、生徒が選んだ割合で団体に寄付するという仕組みがあることです。

ふれあいパスポートという「きっかけ」と「継続」を支援する具体的なツールの提供によって、児童、生徒が自ら「自助力」と「共助力」を育みます。

ふれあいボランティア活動感想文の募集は、児童、生徒がふれあいパスポートを活用しながら、自分が取り組んだボランティア活動について感想文を書き、自分の活動を振り返ることで、「自助力」や「共助力」、自分の成長を確認する機会を提供する、という趣旨から実施しております。

平成二十五年度は、十一月現在のふれあいパスポート参加校一〇二校を対象に行い、昨年と同様の四六六の感想文の応募をいただきました。

感想文の選考に当たっては、四名の方にお問い合わせしました。選考委員長には3年B組金八先生を書かれた脚本家の小山内美江子先生をお願いし、三名の選考委員は昨年度の委員に引き続きお願いをいたしました。（P2参照）

この四人の選考委員によって選ばれた受賞者の感想文からは、児童、生徒が活動を通じて地域の様々な人々とのふれあいながら人間力を成長させたことが伝わってきます。この感想文集をお読みいただきました学校や子どもにも係わる団体の皆様におかれましては、積極的に子どもたちに活動への働きかけをお願いしたいと思っております。

平成二十六年三月一日

特定非営利活動法人さわやか青少年センター

理事長

有馬 正史

ふれあいボランティアアパスポート参加校リスト

(P17参照)

◎ホームページにも参加校、感想文集をご紹介しています。
ダウンロードできます。(URL: <http://www.soc-npo.or.jp>)

「ふれあいボランティア感想文」

応募総数466点

(小学校16校368点、中学校9校108点、高校4校10点)

○受賞者

【ふれあいボランティア活動大賞】

静岡県袋井市立袋井南中学校2年

寺井 愛さん

【小学生賞】(7人)

千葉県栄町立布鎌小学校1年

芝原 慧爾さん

鹿児島県南九州市立中福良小学校1年

佐多 聖さん

千葉県栄町立布鎌小学校2年

大熊 七海さん

神奈川県横浜市立日限山小学校3年

相澤 美月さん

鹿児島県南九州市立中福良小学校4年

和田 聖麻さん

長崎県諫早市立真崎小学校5年

鳥越 唯那さん

千葉県栄町立布鎌小学校6年

青木 真菜さん

【中学生賞】(5人)

千葉県栄町立栄中学校1年

齋藤 貴大さん

千葉県栄町立栄東中学校2年

竹内 詠美さん

千葉県栄町立栄東中学校2年

後藤 祐大さん

東京都目黒区立目黒中央中学校2年

高橋 侑希さん

東京都武蔵村山市立小中一貫校村山学園2年

福王 理絵さん

【高校生賞】(3人)

横浜創英高等学校1年

松井 晴希さん

鹿児島県立川辺高等学校1年

水溜 千晴さん

東京都立練馬高等学校2年

岩田 凌さん

◆ふれあいボランティア感想文選考委員

選考委員長

JHP・学校をつくる会代表、脚本家

小山内 美江子氏

選考委員

NPO法人放課後NPOアフタースクール

代表理事 平岩 国泰氏

早稲田大学文学学術院

教授 増山 均氏

日本教育新聞社

編集局局長 矢吹 正徳氏

後援

日本教育新聞社

◆ふれあいボランティア感想文選考委員長

ふれあつてボランティア

JHP・学校をつくる会代表、

脚本家 小山西 美江子

「ふれあいボランティア感想文」というタイトルのコンテストに、全国から寄せられた小学一年生から高校二年生までの作品を拝読して三〇本を選び、更に大賞候補を冷や汗いっぱい選ばなければならぬ。これぞ審査員たちのボランティアと言えるだろう。

主題はまさに「私と、又は僕とボランティア」であった。小学一年生は一年生なりの、高校生はさすがに高校生としての考えをしっかりと打ち出している。表現力においてはやはり、小一と高二の一騎討ちとはならなかった。けれど、小一が（ボランティアって、なに？）と両親又は担任の教師に聞いたところから出発しているが、実際に行動に移してからの考え方は、社会的にハンディキャップのある人に対しての接し方の変化など、なんとみずみずしい感性を持っているのだろうか、こちらが思わずたじろぐ場合があるが、

一方、高校生ともなれば、PCなど駆使して理解するのだから、それなりにボランティア論を展開する者、実際に行動に

移して見る者に別れたりするが、根本にいま、目の前で「助けを必要としている人にとっさに手を差し出す」という点では、六才の小一も、頭の中が受験勉強で一杯の高校生もちゃんと理解している、そして年齢が上るに従ってボランティアとしての自覚や行動の中が広がって来る。

私たち大人は、これを視野が広がったと大歓迎だが、やたらに「弱者に対しては・・・」など頭でっかちな口を叩かせず、相手のニーズを察知したならば瞬時にして、何をどうするか、行動できるようでありたい、まさにこの作文コンテストは、小一から高二までの生徒たちの、地に足がついていると見られる発言と報告がよみとれる。

改めて受賞者の皆さんにおめでとうと申し上げるが、とかく世の大人たちが「今の若者は」嘆くが、この作文集を手にとると、希望が湧いてくるはずである。これもボランティアの一つの形とうけとって頂きたい。

或るシニアは、自分が歩んで来た人生の証しである体験その他を、熱い思いで若者に伝えたく、それを真剣に受けとる若者がいた時は、この国での助け合い精神は大宇宙にも根ざして行くことだろう。

◆選考委員

成長する喜び

NPO法人放課後NPOアフタースクール

代表理事 平岩 国泰

このたびの皆さんの感想文を読んでとても温かい気持ちになりました。皆さん様々なボランティアを行い、一人ひとりの心が成長なさっていることがとても力強く感じられました。皆さんの心の成長は、今回「ボランティアをして誰かに喜んでもらえた」という経験が大きかったと思います。「人に喜んでもらえる」「あなたがいてよかった」と言われる、これは私たちがみんなに共通する生きる喜びなのだと思います。そしてもう一つ大切だったのは「自分からボランティアを行った」ということだったと思います。学生の時代は、自分から何かを始めなくても大人が準備してくれているケースが多いと思います。しかし社会に出るとそうはいきません。自分から考え自分で動いていかないとその先は切り拓かれていきません。ですので、今回皆さんが自分から動いて行ったことは大変貴重な経験です。自分から動いて行ったことで成果が出るのは喜びもひとしおです。そのことも感じるものが出来たのではないかと思います。これこそ皆さんの最も重要な心の成長だったと思います。身近なところにボランティアのチャンスはたくさんあります。また、「自分から動く」チャンスも日々あります。ぜひ今回の経験を

これからの充実した生活にいかしてくれれば嬉しいことだと思います。皆さん大変お疲れ様でした。

「こころを見つめ、考えを発展させ、市民・住民へと成長させる

早稲田大学文学学術院 教授 増山 均

「ありがとう」と声をかけられたときの“うれしさ”。やりとげたあとの“すがすがしさ”。清掃活動に参加してキレイにしたのは、地域の環境であると同時に、自分のこころであったこととの発見。どの感想文も、「ボランティア活動」に取り組んで感じた自分の心の動き、気持ち、考えの変化を、しっかりと見つけていて、良い感想文でした。

実際に活動してみると、いろいろ考えるようになります。「どうして、ごみを捨てるのかな」、「だれが、こんなに捨てるのかな」、「どうしたら改善できるだろうか」、「自分が大人になったら、このようにしたい」と。地に足をつけて考える姿勢、思考の発展にも好感が持てました。

「ボランティアパスポート」が取り組みのキッカケとなり、最初は先生や親に誘われて取り組みに参加したとしても、その中の“気づき”、「自分から進んで取り組む気持ちが大切であること」を発見していることに注目したいですね。「ふれあいボランティア活動」は、子どもたちの「地域住民・市民としての成長」を助ける重要な取り組みになっていると思います。

身近な活動から広がる視野がすばらしい

日本教育新聞社 編集局局長 矢吹 正徳

小学1年生から高校2年生まで、それぞれのボランティア活動への思いが、良く伝わってくる作品が多く、心地よく読むことができました。応募していただいた、みなさんに感謝です。

特に、小学校の低学年のみなさんの作品には、おどろかされました。ボランティア活動をすることで、どんな地域のことや、そこに住んでいる人などかかわり、視野が広がっていく様子が、直接的に表現され、あらためてボランティア活動が人と人をつなぐのだと、とみなさんから教えられました。

中学校、高校へと上がるにつれ、活動だけでなく、ボランティア活動を取り巻く社会環境、課題などへも目を向けて、深く考察している点にも感動しました。

一つ一つの作品からは、校内の活動から地域への活動、地球環境へと思いをはせるようになっていくことがわかります。感想文を書いてくれたみなさんの成長といっしょに、活動も広がっていました。一つのボランティア活動を深くみつめ、そこから多くのことを発見する、みなさんの仲間もいます。

活動そのものから、子どもやお年寄り、地域の人たちへの理解を深め、活動の仕方を工夫する知恵も生まれているようです。

ボランティアパスポートそのものをとりあげた作品は多くはありませんでしたが、作品の多くは、ボランティア活動をき

つかけとして、身近な活動から大人の課題、地域の課題、自分の気持ちなどに気付いていくという心情の変化がよく表現され、今後のさらなる成長を期待させてくれました。

みなさん、これからもいっしょにがんばりましょう。

受賞作品

【ふれあいボランティア活動大賞】

祭の準備に参加して

静岡県袋井市立袋井南中学校2年 寺井 愛

町中に笛や太この音が響き、祭青年が騒ぐ声がする。道路や屋台のちようちんが灯りまぶしい。楽しみにしていた袋井祭が始まった。

祭の一週間前、私は友達と一緒に祭の準備に参加した。この祭の準備は毎年参加している。小学生だったときは、暇だからとか、準備が終わったらアイスがもらえるからという理由で参加していたが、中学生になってからは変わった。祭の参加者として祭の準備に参加したいという気持ちが増えてきたのだ。

気持ちが変わって、いろいろなことが分かってきた。祭の準備に参加している人は、祭の中心である祭青年がやっているものだと思うていたが、五十代、六十代の人が多くいることが分かった。しかも、若い祭青年に負けないぐらい声を出し、力仕事をしていった。また、女の人たちは男の人たちが力仕事をしている間に、細かい作業をしていたり、小学生の世話をしていたりした。祭の裏側にはたくさんの方の協力があつたんだと分かり、その一員に私も入れていることがすごくうれしかった。

その日はすごく暑い日だった。でも祭青年は良い祭にするた

めにどんなにきつくても頑張っていた。中学生の私たちに、
「暑いけど大丈夫？」

と声をかけてきてくれるほどだった。私たちもそれに答えるように積極的準備を行った。そして、祭本番は安全で楽しい祭になった。

祭の裏側にはたくさんの方がいて、安全に祭ができるのもその人たちのおかげなんだとあらためて思った。そして地域の人の役に立つことの良さが分かった。これからも地域のボランティアには積極的に参加していこうと思う。



【小学生賞】

きれいになったよ

千葉県栄町立布鎌小学校1年 芝原 慧爾

もうすぐふゆになりそうなの11月のおわりごろ、休みじかに校ていのおちばひろいをしました。

校ていにてでみると、はっぱがいっぱいでした。ぼくはきたないなあとおもいました。

そこで、ぼくは、いちようやかえでなどのはっぱとえだを手でひろって、リヤカーにいっぱいあつめました。ぼくはどんどんきれいになつてるぞとおもいました。

はじめてから5かいぐらいあつめるとやつとじめんがみえてきました。きれいになつてるなあ。よし、もつとがんばるぞ。

それからひろうたびにどんどんじめんがでてきて早くぜんぶきれいにしたくなってむちゅうでひろいあつめました。

すっかりはっぱがなくなつてきれいになつたところを見たら、あせをいっぱいかいてつかれたけれど、きもちがすつきりしてさわやかにになりました。むつこ先生にも

「ありがとう。」

といつてもらえて、もつとうれしくなりました。

学校のほかにもぼくは、なつにふかま大はしのくさとりと、ふゆにどうろのおちばあつめのボランティアにおとうさんとさんかしました。

みんなのおるどうろをきれいにしていると、すつきりするのとみんなのやくにたてたきがしてとてもうれしくなりました。

これからもいえの手つだいやボランティアにすすんでさんかしてやくにたてたらとおもいます。

まちがきれいになつた

鹿児島県南九州市立中福良小学校1年 佐多 聖

ボランティアかつどうがありました。とよかみのどうろでごみひろいをしました。ボランティアかつどうは、はじめてなので五ねんせいのみきさんがおしえてくれました。

「もえるごみはこのふくろにいれるよ。そのままおいておくとんでいくよ。」

とやさしくいつてくれるので、みんなといっしょにごみひろいできました。

ひろつたごみのだいいいは、たばこです。だいいいはおかしのふくろ、だいいいはあきかんです。

おとななのたばこをすてているからへんだなとおもいました。おかしのふくろをすてたのは、子どもだとおもいます。おとなも子どももちゃんとごみぶくろにいれたらいいとおもいます。

わたしは、おうちにかえつてごみをすてています。とよかみがきれいになつたから、ちよつとすつきりしたきぶんになりました。

やってよかったな

千葉県栄町立布鎌小学校2年 大熊 七海

わたしのクラスには、本がいっぱいあります。ディズニーの本やむかしばなしなどがあって、休み時間に読むのが楽しみです。だけどその本はビリビリになっていたりきたなくなったりしてわたしは、

「きたなくていやだなあ、このままじゃ読みにくいな。」

と、わたしは思っていました。でもわたしは、なにもできませんでした。

ある日、道とくの時間に「黄色いベンチ」と、いうお話をべんきょうしました。そのお話は、男の子たちがどろだらけのくつでベンチに立ってしまい、それをつかおうとしたおばあさんがこまってしまったという話です。そのお話を読んで、クラスの人みんなで、みんなでつかうものについて、どうつかったらいいのかを話しました。みんながつかうものは、のぼりぼうやトイレ、つくえやいすなどがあって、大切につかっていたいと思います。

「あっそうだ本がやぶれていたんだった。」

わたしは、そうじの時間に思いだしました。自分のそうじがかわってから、セロハンテープをとりだして、なおしはじめました。わたしは本がすぐくかわいそうだと思います。人のきずをなおすみたいに大切に、しんちょうになおしました。

なおしおわって、本を見ると、

「気づいてくれて、ありがとう。」

と、言っているみたいでした。わたしは、思いきってやってみて、よかったなと思います。これからも、自分で気づいたことを、どんどんしていきたいです。

ふれあいボランティア活動を通しての私の成長

神奈川県横浜市立日限山小学校3年 相澤 美月

わたしは、朝、みんなが通る階段を、そうじしていたら、近所の人や、え顔で、わたしに、

「そうじしてくれて、ありがとうね。」

と言ってくれました。わたしは、言われた時、自分も、え顔になりました。また、お年よりの人たちと、楽しい時間を、すごす事ができました。お年よりの人たちは、昔の事を話してくれました。竹馬や、こま遊び、兵たいさんごっこなど、とても、うれしそうに、思い出しながら教えて、くれました。わたしが、一番びつくりした事は、昔のせんそうの事です。わたしの知らない事ばかりで、とても勉強になりました。ぎやくに、わたしは、今の学校のことを話をして、ニコニコ聞いてくれてうれしかったです。さいしよは、ボランティアってなんのためにあるのかなあと、わたしは、ずっと思っていました。でも、そうじをしたり、お年よりと、ふれ合うとなんだか、みんなえ顔にな

って、どんどんやりたくまりました。わたしは、ボランティアの意味が分かった気がします。じしよで調べたら、自分から進んでやるのがボランティアと言う事が分かりました。ボランティアは、人のためでもあり、自分のためにもなるので、ただやるだけでなく心をこめて、やる事が大切だと気がつきました。これからも、わたしは、たくさんボランティア活動をして、みんなを笑顔にしたいと思います。

ボランティア活動

鹿児島県南九州市立中福良小学校4年 和田 聖麻

ぼくのちよボラは、朝の時間に行っています。いちようの木の下には、落ち葉がたくさん落ちています。友達といちようの葉をすみずみまではわいています。

いっしようけんめいはわき終わった後、校庭を見てみると、落ち葉がなくなっすごくきれいになっているのが分かりました。きれいになっただけでなく、自分の気もちもとてもよくなりました。友達と協力しながらはわくと、こんなにできるからいいなと思いました。

ある日、学校がすんでから、火ばさみをもって家から学校まであきかんやたばこのすいがら拾いをしたことがありました。

それを先生に話すと、

「えらいね。」

と言われて、ますますやる気が出て、ごみ拾いを何日か続けました。

そのことを友達に話すと、その友達もぼくと同じようにボランティア活動してくれました。ボランティアが広がっていくと、自分たちのすんでいるところがどんどんきれいになっていくので、うれしいなと思いました。

三年生のときとくらべると、毎日ボランティア活動をするようになったので、ぼくは変わってきたなと思います。みんなのためにボランティア活動はいいことだなと思いつながら今日も、がんばります。



きれいな地いきを目指して

長崎県諫早市立真崎小学校5年 鳥越 唯那

私は、ボランティアパスポートを知るまでは、落ちていたごみなんか気にしないで通りすぎていました。

でも今は、ごみが落ちていると気になって、ごみをひろうようになりました。

出かける時は、ビニールぶくろを持ち運ぶようになりました。学校では、ちらしや新聞、ごみ箱も作りました。

今ごみ箱は教室にあつて、みんなごみ拾いをがんばつて、ごみ箱はあつという間に満たんになってしまいました。

私も友達と、ごみを拾う活動をしてとてもよいけいけんになったと思います。

ごみの中で一番多いごみはたばこでした。なので大人の人もごみを捨てているんだと思いました。

なので、私達のごみを拾うすがたを見て、少しでもごみのことについてかんがえてくれればいいなと願っています。

私達が今している行動できつと何かが変わると思います。

なので、このことをずっと続けて、多くの人がごみを拾い、みんながきれいといってくれるくらいの地いきにしたいと思いました。

私は、ボランティアパスポートを知らないままだったから、ごみを拾うなどのボランティアは一回もしなかっただろうな、地いきをきれいにしようと思わなかったと思います。

私はボランティアパスポートでいいけいけんをして私はいろいろと変わったと思います。

公園、キレイになったよ

千葉県栄町立布鎌小学校 6年 青木 真菜

友達と公園に行ったら、そこにはゴミがたくさん落ちていました。

私は、友達と話しをしていると、おじいちゃんとおばあちゃんが来て、公園のゴミを拾い始めました。

私と友達は、目を合せて、おじいちゃんとおばあちゃんに話しかけて、「私達にも手伝わせてください。」とたのみました。二人は笑いながら、「手伝ってくれてありがとう。」と言いました。

1時間ぐらい、一生けん命ゴミ拾いしたらゴミが、1コも落ちていないきれいな公園になりました。

おじいちゃんとおばあちゃんは、この公園は小さい子供やいろんな人がいてにぎやかな公園だけど、小学生や中学生の子供たちがおかしの食べがらやペットボトルなどをすてているから、こうして毎日、公園をキレイにしているんだよと話してくれました。

公園がキレイになったのでいったん帰って友達と二人で、公園にゴミを落とさないで（おばあちゃんとおじいちゃんがいつもそうじています。）というかんばんを作りました。

それを次の日に、あの公園にたてようと友達と決めました。次の日、その公園に行くと、またゴミがたくさんありました。

おばあちゃんとおじいちゃんが一生けん命そうじをしています。
した。

二人に、かんばんを公園に立ててもいいか聞いたら、二人は
すごく喜んでくれました。

そしたら次の日にはゴミが落ちていませんでした。そうじを
しなくてもピカピカ。公園にびっくりしました。自分達をした
事が人の役に立ち大変うれしかったです。

そうじは人の役に立つことだと思いました。

公園がキレイになると小さな子供が笑いながら遊んでくれ
るのでうれしかったです。

【中学生賞】

思いやりの心

千葉県栄町立栄中学校 1年 齊藤 貴大

僕は先日、あるイベントのボランティアをやりました。そこ
ではいくつかのグループに分かれて活動しました。僕は友達と
二人で参加したのですが、運悪く二人は別のグループになっ
てしまいました。同じグループの人は違う学校の人で、知らない
人でした。最悪だ、早く終わってほしいと思いました。でも活
動していくうちに、各自負担をしないと大変になってきてしま
い、勇気を振りしぼって、話しかけてみました。そうしたら、
優しく答えてくれて、ほっと安心しました。その人とは、活動

している合間に時間があり、色々な話をしました。ボランティ
ア活動が終わり、そのイベント会場を歩いていたら、再びその
人に会い、僕の友達とその人の友達とで遊びました。その時間
は本当に楽しくて、忘れられない日になりました。

今まで、ボランティアというものは、ただの手伝い、という
イメージで、あまり良い印象ではありませんでした。でもこの
体験を通して、ボランティアをすることで得られる、「人の役
に立つ」という、何か心地良い気持ちになるということだけで
なく、ボランティアは、人と友達になったり、話をするきっか
けでもあるということを強く感じました。

これからはあの時、勇気を出して話しかけたことで、友達が
一人増えたという嬉しい体験を思い出して、様々な場所で多く
の人に勇気を出して、話しかけてみようかと思えます。このよ
うな思いにさせてくれたボランティアは、人の役に立つことだ
けでなく、自分の役にも立つ活動だという事が分かったので、
これからも積極的に参加していきたいです。



ボランティア活動を通して自分の成長

千葉県栄町立栄東中学校2年 後藤 祐大

僕は小学生の頃、家族と一緒に小学校の近くの神社と寺の掃除をしていました。地域の人たちも掃除していました。

神社は、かれ葉がたくさん落ちていて、道路にまで広がっていました。すごい量だったので二時間、三時間かかりました。そのとき、僕は「早く終わらせて家に帰ってゲームしよう。」と考えていました。けど、だんだん面どうになってきて「おじいちゃんに任せよう。」という考えを持ってしまいました。自分も大変なのにおじいちゃんは「いいよ。」と言って引き受けてくれたけど、何だか複雑な気分でした。

次の日に寺の掃除をしました。寺は神社よりもかれ葉がすごくても、誰が捨てたか分からないテレビや、タオル、ビン、カンなどがそこらじゅうに落ちていました。僕はおじいちゃんにそれらの落ちているごみの回収を任せました。落ちている量がとても多くて一人でやっていたら日が暮れてしまうのではないかと思うくらいでした。半分ぐらい拾った時には、午後になっていました。残りの半分を見て「うわ、まだこんなにあるのか。」と思ったけど不意に「自分はこんなにたくさんのごみを拾ったのか。」という達成感がこみあげてきました。ちょうどおじいちゃん達の掃除が終わっていたので、今度は「任せろ。」ではなく「一緒に手伝って。」と言いました。そしたら笑

顔で「もちろん。」と言ってくれました。掃除が終わった後、おじいちゃんが、「お前は寺の方、神社の方、地域の方のために掃除したんだぞ。えらい。」と言ってくれました。何だかとてもうれしかったです。この掃除を通して「自分のためにやるのではなく皆のためにやる。」ということを改めて感じました。自分はまだまだ成長していないけど皆のためになるのなら進んでボランティアしようという気持ちになれてうれしかったです。

ボランティア活動を通して成長した自分

千葉県栄町立栄東中学校2年 竹内 詠実

今シーズン一番の冷え込みで手がかじかみ息が白くなる日曜日の午前中。本当は友達とイオンに行きたかった自分だけど今は青いジャージに合わない赤色の上着を着て、「赤い羽根募金」をしている。しかし、何だか嫌ではなくめんどくさくもなく、むしろ楽しかった。

初めは誰も募金をしてくれなかった。何でお金を入れてくれないのかな？と思った。しかし自分にも問題があると思い、まずは自分が変わろうと考えた。ただ、「ご協力お願いします。」ではなく相手の顔を見て笑顔で、しかし真剣に「ご協力お願いします。」と言うことが大切だとわかった。

その時、三分前くらいに会ったおばあちゃんが遠くから走っ

てきて

「ほんの少しの気持ちです。」

と百円玉を募金箱に入れてくれた。

この体験でわかったこと。それは、募金とはお金をもらうことではなく、気持ちをもらうこと。ということだった。

「やったー！全部で一万円も集まった！」

この一万円はただの一万円ではなく、今まで会ったことも話したこともない知らない人達からの小さな気持ちが集まってできた大きな大きな思いなのだ。

私はこのボランティア活動を通して、直接会って話したり物をあげたりできない人達と私達は募金でつながっているんだ。と思えるようになった。

ボランティア活動で学んだこと

東京都目黒区立目黒中央中学校 2年 高橋 侑希

私が中学で所属している、ボランティア部の主な活動内容は、エコキャップの回収・集計、地域の清掃活動、募金活動、一口と足で描く作品」の販売、一人暮らしのお年寄りへの昼食作りの手伝い、などです。

特に、お年寄りへの昼食作りは、一緒に活動している方々（地域のご高齢の方々）からとても感謝されます。「いつも来てくれてありがとうね。」と言われると、とても嬉しくなります。

私たち部員が「ボランティア活動をやっていて良かったな。」と思える、やりがいを感じるタイミングなのです。

その背景には、若い人がボランティア活動をやりたがらないということがあると思います。それは一体どうしてでしょうか？ボランティア活動は「無給奉仕」であるからです。そうかといって、「若い人にもっと積極的に参加してもらいたいから。」と有給にしてしまうと、それは、もはやボランティアではなくなってしまうのです。

実は、私は六百グラムの未熟児で生まれました。一歳までNICUに入院し、その後は小学校に入学するまで療育センターに通っていました。そこで、ボランティアの大学生の方々に色々助けていただきました、両親から聞きました。その方々がいだからこそ、今の私はいるのです。だから、今度は私が恩返しをする番です。

昼食作りで一緒に活動している方々の中には、二十年以上参加されている方が何人もいらっしゃいます。私たち若者が、そんな方々の思いをくんで、社会にボランティア精神を広めていきたいらいいと思います。そこには、お金だけでは得られない達成感があるはずです。

誰かのために役立てる喜びを知ることができて、私は幸せだしありがたいです。

ボランテティア活動で知った保育士

東京都武蔵村山市立小中一貫校村山学園中学2年 福王 理絵

夏休み。私は「ひまわり保育園」と「めぐみ保育園」で、ボランテティア活動をしました。保育園を活動先に選んだのは、まず子供が大好きであることと、将来教育系の仕事に就きたいと思っていたからです。

ボランテティア初日の朝。私は少し緊張していました。しかし、自己紹介を終えた私に子供達が

「お姉ちゃん、遊ぼうよ。」

と笑顔で話しかけてくれました。とても嬉しくて、少し安心しました。

少し時間が経ち、子供達は鍵盤ハーモニカの練習をし初めました。私はその時、一人困っているけれど、忙しい先生に声をかけられない子がいることに気付きました。「どうしたの。」と問うと、今にも泣き出しそうな顔で、「できないの。」と、その子は答えました。自信はなかったけど、私が教えてあげることになりました。私がまず先に、弾いてあげた後にその子が真似するという風にやりました。すると、ゆっくりでしたが、少しずつ上達してきているのが分かり、最後には一曲をほぼ完璧に弾けるようになっていました。私は、その子と一緒に喜びを分かち合い、これまでにない達成感を感じました。

このボランテティア活動を通し、私はたくさんのことを学びま

した。子供の正直さ、素直さ。保育士の大変さ。いつも元気な子供達と接するには責任感や忍耐力、また体力や気力もないと、もたないなと思いました。「子供が好き」だけでは務まらない仕事だということを知りました。でも、子供と一緒に成長することが出来、とてもやりがいのある仕事だと思います。貴重な体験をさせていただいて、保育士の方々と、一緒に遊んだ子供達に感謝の気持ちで、いっぱいです。

【高校生賞】

ボランテティアと私の夢

横浜創英高等学校1年 松井 晴希

私は将来、発達障害を持つ子どもの手助けをすることが出来る職業に就きたいと考えています。そのように思うようになってきたきっかけに私の弟の存在があります。

私の弟は、特別支援学級に通っています。私が中学2年生の時、授業参観に行きました。そこでは、先生が生徒一人ひとりに合った丁寧な指導をしてくださっていました。そのように多くの方々支援により、弟は少しずつ出来ることが増えていき



ました。私はそのような弟の姿を見て、「発達障害を持つ子の手助けをしたい。」と強く思うようになりました。

そこで今年の夏休みを利用して、地域の訓練会でボランティアをさせていただきました。その訓練会には幼稚園や保育園に入園する前の発達障害を持った子が来ています。その中には、自分の思った通りにいかずに泣き叫んでしまう子、自分の好きなことについて沢山話してくれる子などがいました。皆、それぞれ特徴が異なるからこそ、一人ひとりに合った支援が必要なのだと改めて実感することが出来ました。

今回のボランティア活動を通して、私は、ただ支援するのではなく、その人や時に合わせた臨機応変な対応をすることが大切だと思いました。これは、社会の中でどの場面にもあてはまることだと思えます。

また、子どもたちが楽しそうに活動している姿を見て、「ボランティアをして良かったな。」と思うのと同時に、夢を必ず叶えたいと強く思いました。

私は夢を叶えるために、今後色々な施設を訪問し、より多くの人と関わり、指導している方や保護者の方から、どのようなことに気をつけているのかを学び、接していこうと思えます。そして、ボランティアをする度に以前学んだことをいかし、将来、自分自身が、一人ひとりに合った支援が出来る特別支援学校教諭になりたいと思えます。

人の心をつなぐもの

鹿児島県立川辺高等学校1年 水溜 千晴

昨年の秋に私は友達とあしなが育英会が毎年行っている、第八十七回あしなが学生募金のボランティアに参加しました。ボランティアの内容は街頭募金で、全国で行われているものです。私は鹿児島県に住んでいるので鹿児島市内の天文館で三時間程行いました。私達のほかにも他校から二十名程参加がありました。

あしなが育英会は、病気や災害、自死などで親を亡くしたり、親が重度の後遺障害で働けない家庭の子供達の進学の夢を継続的に支援する民間非営利団体です。私自身もあしなが育英会にお世話になっています。もともと多くの人々に育英会の存在を知ってもらいたかったのですが、私は友達と何回も呼びかけました。初めは呼びかけることが恥ずかしく、他校の生徒の人も同じように変な沈黙が何度かありました。しかし、時間が経つと恥ずかしいは無くなり、呼びかけられるようになりました。通行中の人達は、目を合わせず通りすぎる人、気にはなっている様子でも素通りする人もいましたが、多くの人が募金に協力してくださいました。また、呼びかけと同時に育英会のことを説明したパンフレットを配ったら、受け取った方がしばらくして戻って来られて募金をした後「今読んで帰って来ました。頑張ってるね。」と声を掛けてくださいました。その言葉は私のエネルギーにな

りました。さらに募金をして下さった方々は、年配の方だけでなく、小さな子供や、私と同じ年代の人達も協力してくださいました。人の心は本当に美しく、綺麗なものだなと強く感じられた一日でした。

私はこのボランティアを通して、ボランティアは笑顔に会えて、人の心をつなぐ大きなひとつの温かい輪だと思いました。将来はもつとたくさんの輪が出来たらとても幸せです。



自分福祉に通ずる道

東京都立練馬高等学校2年 岩田 凌

ボランティア活動、それは私にとっていわば自分福祉といえる。結論としては私の人間味に欠けていた部分が成長した。自分の成長のためと冷淡に割り切ってしまったが、間違いではない。自分のために行った、それが結果として影響を及ぼす。私はボランティア活動をそう捉えている。

さて、その活動としてはお祭りのスタッフである。福祉作業所に赴いてお手伝い、その内容は調理から着ぐるみに至るまで、

幅は広いだろう。決して大きいイベントとはいえないが、楽しく活動させて頂いている。高齢者や小さな子供を多く相手にするが、そうした触れ合いは私にとって大きな衝撃を覚えた。白百合にて焼きそばを作った時、購入された方が「おいしかったよ。」と一言声を掛けてくれた時は、夏の日差しの下で頑張った喜びも一入であったわけだ。

練馬区社会福祉協議会マスコット、ネリーちゃんの着ぐるみをかたく祭りの中に入った。表へ出ると子供たちが集まり、叩いてきたり握手をしてきたり、だがみんな笑顔であった。私は人を幸せにすることが自分の幸せに繋がっているとうことを実感した。それは人とふれあい、そして共に楽しむことで達成されたもの一つである。こうした活動を契機に「自分の幸せのために人を幸せにする。」という自分福祉の考え方に辿り着いたわけである。

私の人間味はそこにあった。人の幸せを願い活動できる人間の特有というべきもの、活動をする前までは芽生えなかった感情だ。私はこうした福祉活動を将来も続けていくつもりである。それは私のためではあるが、幸せを享受することのできる私以外の人のためでもある。

平成25年度ふれあいボランティアパスポート参加校(2014年3月末現在)

県	No	フレンズ	参加校
北海道	1		NPOまち工房・元氣!
岩手県	2		盛岡市立月が丘小学校
	3		盛岡市立厨川中学校(PTA)
	4		仙台市立七北田小学校
宮城県	5		秋田県立秋田西高等学校
秋田県	6		山形県青年の家(山形県教育委員会)
福島県	7		棚倉町立近津小学校
	8	教育 棚倉町 委員会	棚倉町立社川小学校
	9		棚倉町立高野小学校
	10		棚倉町立棚倉小学校
	11		棚倉町立山岡小学校
	12		棚倉町立棚倉中学校
茨城県	13		水戸市立河和田小学校
	14		阿見町立阿見小学校
	15		茨城県立霞ヶ浦難学校
埼玉県	16		越谷市立中央中学校
	17		白岡町立藤津中学校
千葉県	18	会 栄 栄	栄町立安食小学校
	19	町 町	栄町立北辺田小学校
	20	社 社	栄町立酒直小学校
	21	会 会	栄町立布鐘小学校
	22	福 福	栄町立安食台小学校
	23	祉 祉	栄町立竜角寺台小学校
	24	協 協	栄町立栄中学校
	25	議 議	栄町立栄東中学校
	26		市原市立青葉台小学校
	27		港区立青山中学校
	28	○	文京区立第八中学校
	29		品川区立小中一貫校日野学園
30		品川区立鈴ヶ森中学校	
31		品川区立荏原第五中学校	
32		目黒区立目黒小学校	
33		目黒区立上目黒小学校	
34		目黒区立第八中学校	
35		目黒区立目黒中央中学校	
36		世田谷区立駒留中学校	
37		杉並区立番掛小学校	
38		杉並区立松庵小学校	
39		豊島区立早小学校	
40		板橋区立天津わかしお学校	
41		練馬区立三原台中学校	
42		八王子市立宮上中学校	
43		昭島市立つつじヶ丘南小学校	
44		町田市立三輪小学校	
45		小平市立小平第六小学校	
46		小平市立小平第七小学校	
47		小平市立小平第八小学校	
48		小平市立小平第十四小学校	
49		小平市立学園東小学校	
50		小平市立小平第四中学校	
51		小平市立花小金井南中学校	
52		国分寺市立第七小学校	
53		東大和市立第三中学校	
54		武蔵村山市立第一中学校	
55		武蔵村山市立第五中学校	
56		武蔵村山市立小中一貫校村山学園	
57		東京都立芝商業高等学校	
58		東京都立芦花高等学校	
59		東京都立練馬高等学校	
60		東京都立東久留米総合高等学校	
61		東京都立五日市高等学校	

県	No	フレンズ	参加校
神奈川県	62		横浜市立新井中学校
	63		横浜市立岡村小学校
	64		横浜市立日根山小学校
	65		横浜市立つつじが丘小学校
	66		茅ヶ崎市立鶴が台小学校
	67	○	茅ヶ崎市立松濱中学校
	68		神奈川県寒川町立寒川中学校
	69		神奈川県立七里万浜高等学校
	70		横浜創英中学・高等学校
	71	○	相崎市立第二中学校
新潟県	72		岐阜市立青山中学校
	73	○	関市立金竜小学校
岐阜県	74	○	関市立小金田中学校
	75		袋井市立袋井南中学校
静岡県	76		一宮市立葉栗中学校
	77		一宮市立西成中学校
	78		一宮市立尾西第二中学校
愛知県	79		高知市立一宮小学校
	80		高知県立高知東高等学校
高知県	81		伊万里市立南波多小学校
	82		武雄市立北方小学校
	83		嬉野市立久間小学校
	84		嬉野市立嬉野小学校
	85		嬉野市立轟小学校
	86		嬉野市立吉田小学校
	87		嬉野市立嬉野中学校
	88		嬉野市立大野原中学校
	89		嬉野市立吉田中学校
	佐賀県	90	
91		○	神埼市立西郷小学校
92			神埼市立替振小学校
93			神埼市立千代田西部小学校
94			神埼市立千代田中部小学校
95			神埼市立千代田東部小学校
96			神埼市立仁北山小学校
97			神埼市立神埼中学校
98			神埼市立替振中学校
99			神埼市立千代田中学校
長崎県	100		
熊本県	101		玉名市立玉名小学校
鹿児島県	102		南九州市立中福良小学校
	103		鹿児島県立川辺高等学校

児童・生徒
参加人数

30, 155人

ふれあいボランティア
パスポート配布数

36, 601冊

※フレンズ:

教育委員会や学校が独自に作成したふれあいボランティアパスポートを使用し、さわやか青少年センターの寄付活動に参加している教育委員会や学校のこと。

※教育委員会でまとめられているところ:

教育委員会の取り組みとして全小中学校が参加しているところ。

平成25年度ふれあいボランティアパスポート 寄付額(団体活動支援費)状況

全国的に活動している社会貢献団体		児童・生徒 寄付希望割合	寄付額(円)	
A	認定NPO法人世界の子どもにワクテンを日本委員会	23%	46,000	
B	認定NPO法人JHP・学校をつくる会	9%	18,000	
C	認定NPO法人富士山クラブ	13%	26,000	
D	公益財団法人日本野鳥の会	13%	26,000	
E	認定NPO法人難病のこども支援全国ネットワーク	13%	26,000	
F	公益財団法人日本盲導犬協会	15%	30,000	
G	東日本大震災支援(日本赤十字社)	14%	36%	10,000
	セーブ・ザ・チルドレン・JAPAN RESTART JAPAN フォンド		29%	8,000
	盛岡・マニラ育英会		25%	7,000
	ユニセフ協会		7%	2,000
	宮城県義援金		4%	1,000
	計		100%	

公益財団法人さわやか福祉財団委託事業 後援：日本教育新聞社

平成 25 年度ふれあいボランティア活動感想文集

平成 26 年 3 月発行

特定非営利活動法人さわやか青少年センター

〒105-0011 東京都港区芝公園 2-6-8 日本女子会館 7 階

特定非営利活動法人さわやか青少年センター分室

TEL : 03-6809-2795 FAX : 03-6809-2796

URL : <http://www.ssc-npo.or.jp> / E-mail : info@ssc-npo.or.jp